

# 生活保護申請権を守る指導を

山形版「派遣村」実行委員会の県要請に同席



各局のTVカメラなどマスコミの注目を集めた生活保護問題での対県要請。同席する笹山県議団長とゆり子県議(奥のテーブル) = 6月22日、県庁

## 申請書さえ渡さない実態を告発

6月22日、「山形版派遣村実行委員会」(実行委員長・外塚功弁護士)は、生活保護問題で県に要請を行い、日本共産党県議団も同席しました。

要請は、3月29日に実行委員会が実施した相談会での相談内容や、

「この間のみなさんの要請も受け、県内自治体には事務指導監査で、生活保護で不適切な取り扱いをしないよう指導している」と答えました。

参加者は、求人がなく仕事が見つからないのに、申請の相談に行くと「働く意欲がない」「居住地がないからだめだ」などと言われ申請書を渡してもらえない実例をあげ、「申請権を侵害しないよう、さらなる指導



2009年7月5日  
第70号

発行  
日本共産党県議会議員  
渡辺 ゆり子

<連絡先>  
日本共産党県議団執務室  
電話 023-630-3241  
自宅:山形市青田2-10-5  
電話 023-642-2365

を徹底するよう」求めました。

また、外塚実行委員長は、「山形では車の所有が(生活保護適用の)ネックになっている。仕事をすることも生活をすることも必要で、生活保護申請をあきら

めている方がいる。裁判では、必要な方には認めるべきだとの方向も示されてきており、改善が必要だ」と指摘しました。

熊沢課長は、「生活保護受給者の自動車所有は少しずつ緩和されてきている。県として

## 高校生の就職改善、授業料減免の拡充を

県労連、私教連、教組共闘の3団体が要請

6月26日、山形県労働組合総連合、山形県私立学校教職員組合連合、山形県教組共闘の3団体は、県に対し「高校生をとりまく深刻な実態の改善を求める要請」を行い、日本共産党県議団も同席しました。

要請は、高校生の就職内定取り消しが起こらないような取り組みと、採用の働きかけを企業に行うことや、家庭の経済的負担軽減のため公立・私立の高校

生の授業料減免拡充を求める内容となっています。

武蔵毅・商工労働観光部次長(県雇用対策本部幹事長)が要請書を受け取り、工藤誠・雇用労政課長とともに応対しました。

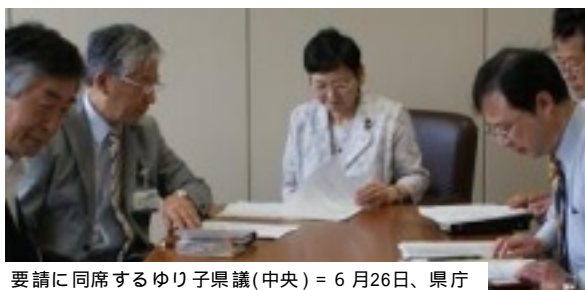
参加者は、「内定した会社から辞退してくれといわれた」との相談事例も示して要請しました。

武蔵次長は、「労働局との関係もあるのでは(調査を)検討させてく

ださい」と答えました。

工藤課長は、「県内企業に雇用の要請も含めて4月にアンケートを行ったが来年度の採用計画については300社強ほどしかなかった。高校の就職担当の先生も企業を回っているが、厳しい状況と聞いている。県としても、ハローワークと連携して地区別情報交換会を開くなどして、求人掘り起こし、雇用確保に全力をあげている」と述べました。

参加者からは、経済危機が高校生に大きな



要請に同席するゆり子県議(中央) = 6月26日、県庁

## 保護率42位の山形県

山形県の生活保護の保護率(千人あたり)は、昨年度4.4パーミル(全国42位)で、他県と比べても低い実態にあります。

生活保護受給者の車の所有は、国基準で交通事情が困難な地域で

も、ここ数年、交通事情や実情を見て基準を緩和するよう国に要請しており、引き続き要請していきたい」と答えました。

求職活動に使用することを条件に6カ月程度認めるところまで緩和されてきましたが、申請窓口では原則禁止が実態です。

山形版派遣村実行委員会は、5日(日)11時~16時、山形市七日町「ほっとなる広場」で街頭相談会を開催します。

## ひとり親家庭に支援を

近年、県内の日本共産党議員のもとへ、父子家庭の相談が増えてきて、議会質問で取り上げられている自治体が出てきています。

そういえば今年に入って、女性が多いポスティングのアルバイトに、以前より男性を多く見かけるようになりました。「派遣切り」などの雇用悪化の影響でどうでしょうか?

母子家庭、父子家庭などひとり親家庭の経済的な厳しさが子どもたちに深い影響を及ぼしています。やむにやまれず、生活保護の母子加算削減の取り消しを求め各地で裁判が起こされています。高橋ちづ子衆院議員も、衆院の委員会でも母子加算削減をやめるよう要求。野党4党による母子加算復活の共同提案につながりました。

また、日本共産党は、母子家庭に限定されている児童扶養手当について、父子家庭にも支給するよう、一貫して要求してきました。参議院では、法改正が可決されています。なにより、おもとには格差を広げ貧困を増大させてきた「構造改革」路線、大企業応援の政治の責任があります。

総選挙は要求実現のチャンス、そして日本の未来をきりひらく積極的意義があると思います。ともに声を上げ、子どもの貧困根絶を!

